

和し 鍛え 学ぶ

中学校のキーワードは「自立」です

4月5日（金）の入学式・始業式から3日が経ちました。この3日間、全校集会や学年集会を行ったり、学級組織を決めたりするなど、各学年、各学級で様々なことを進めてきました。どの学年の生徒も早く新しい環境に慣れて、スムーズな学校生活が送れるように願っています。

学校は学習する場であると同時に、子どもたちがやがて経験する社会生活を疑似体験する場です。中学校教育のキーワードは「自立」。生徒が自分で考え、判断し、仲間と協力して課題に向かい、自分たちの手で自分たちの所属集団をより良くする気持ちを高めながら様々な経験を積んでいくことが、自立への足掛かりになると想っています。そのような視点で3年間指導をしていきます。

自分のことは自分で

さて、ご家庭でのお子さんの様子はどうでしょうか。もう中学生ですから「自分のことは自分でやる」、これが当たり前になるといいですね。お子さんは朝、自分で起きますか？食べた食器はどうしていますか？（※自分で食器を洗う子は感心です。まさかテーブルに置きっぱなしの子はいないと思いますが。）箸セットや水筒はどうしていますか？時間に間に合うように、毎日、自力で登校していますか？（※登校手段は歩くか自転車です。事情がある場合を除いて、自家用車で送ることは、お子さんの自立を考えて控えていただきたいと思います。）

支度にしろ、片付けにしろ、子どもに任せておくと遅いからといって親は手を出してしまいかがですね（わかります）。言わないとなかなか見せないプリント、当日の朝になって突然「これ書いて」と出してくれる書類…。「もう！もっと早く言いなさい！」…イライラしますよね。わかります、とてもよくわかります。

まるで小学生のような内容ですが、意外とできていない中学生も多いように思います。お子さん自身の中学校生活です。期限を守ったり、必要なことはお家の人にきちんと伝えたりするなど、発達段階に見合った事柄については、ある程度、お子さんに責任をもたせてほしいと思います。



（おまけ）これは余談ですが、かつて自分が担任していた時、生徒たちとの雑談で「誰に爪を切ってもらうか」と話題になったことがあります。多くの子が「小学校の中学校年ぐらいから自分で切っている」と言う中で、ひとりだけ「お母さんに切ってもらう」という男子生徒（※中3）がいて笑了。それはそれで、微笑ましい親子関係が目に浮かびます。彼は今30代。立派な社会人です。また会った時に、いつから自分で爪を切れるようになったのか聞いてみたいと思います。

